

令和7年9月20日実施

# 令和7年度 職業訓練指導員試験問題 指導方法

## 注 意 事 項

1. 解答用紙に受験番号・氏名を記入してください。
2. 問題は20問（択一式）、試験時間は2時間です。
3. 係員の指示があるまで試験問題を開いてはいけません。
4. 試験問題は、持ち帰っていただいて結構です。

問1. 昭和60年の職業能力開発促進法の改正に関する記述として、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 職業生活の全期間にわたる労働者の職業能力の開発及び向上を総合的かつ計画的に促進することができる体制を確立しようとした。
- (2) 昭和60年6月に職業訓練法の抜本的な改正が行われ、法律の名称も職業能力開発促進法と改められ、同年10月に施行された。
- (3) 職業訓練の対象を第2次産業に従事する労働者とした。
- (4) 事業主等の行う教育訓練を重視するとともに、公共職業訓練を自主的かつ弾力的に行うこととした。
- (5) 事業主等に対する援助措置、労働者の自己啓発促進のための援助措置等各種の施策を総合的に講ずることを目標とした。

問2. 職業訓練の種類に関する記述として、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 普通職業訓練の普通課程は、中卒者又は高卒者等に対して行う課程である。
- (2) 普通職業訓練の短期課程は、在職労働者や離転職者等に対して行う課程である。
- (3) 高度職業訓練の総合課程は、職業訓練指導員に対して行う課程である。
- (4) 高度職業訓練の専門課程は、高卒者等に対して行う課程である。
- (5) 高度職業訓練の応用課程は、専門課程修了者等に対して行う課程である。

問3. 下記の文章は「指導員に必要な資質」の1つである「専門分野の能力」に関する説明である。この文中の(ア)及び(イ)内に入る語句の組み合わせとして、次のうち正しいものを1つ選びなさい。

「指導員は、担当する訓練科や職種に関する豊富な知識と高い技能を持っていなければならない。その意味は大きく2つある。第1は、実際の職場に適用できる専門分野の能力を身につけることである。訓練生に習得させる能力は教科書の暗記ではなく、(ア)だからである。第2は、これらの専門分野の能力を合理的に説明する能力を持つことである。訓練生が学習に困難を感じているとき、何に苦勞しているのかを見抜いて(イ)を提示しなければならないからである。」

- |                        |               |
|------------------------|---------------|
| (1) (ア)社交性             | (イ)問題の答え      |
| (2) (ア)実際の職場に適用する能力    | (イ)適切な学習方法    |
| (3) (ア)職務マニュアルに忠実に従う能力 | (イ)適切な学習方法    |
| (4) (ア)社交性             | (イ)強力なリーダーシップ |
| (5) (ア)実際の職場に適用する能力    | (イ)問題の答え      |

問4. 公共職業訓練施設における訓練計画の作成に関する記述について、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 訓練計画を作成する際、職業能力開発促進法施行規則第 10 条から第 15 条に規定する訓練基準を参照することが、最初の作業となる。
- (2) 計画する職業訓練が職業能力開発促進法施行規則の別表に定める訓練科に該当する場合は、別表の訓練科ごとに定められた教科や大卒の訓練時間を標準として考慮する必要がある。
- (3) 職業能力開発促進法施行規則の別表に定める訓練科のうち、別表第二の普通職業訓練の普通課程については、厚生労働省が教科編成指導要領を策定している。
- (4) 職業能力開発促進法では、激しい技術革新等に即応する訓練を行うことができるよう、弾力的な展開を認めており、職業能力開発促進法施行規則の別表に定める訓練科に該当しない独自のカリキュラム開発が可能となっている。
- (5) 白紙の上にフリーハンドで描くように、自由に訓練計画を作成してよい。

問5. 普通課程の普通職業訓練における訓練目標を設定する際の、習得の範囲と程度に関する記述として、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 地域産業や訓練生のニーズ、その他の事情を総合的に勘案し、実情に沿った訓練計画を立てる。
- (2) 『～について知っていること。』という表現を使用する学科では、当該訓練科目が目指す技能者として一般的に知っていなければならない知識である。
- (3) 『～について大体知っていること。』という表現を使用する学科では、当該訓練科目が目指す技能者として、知っていることが望ましく概略を理解する知識である。
- (4) 『～についてよく知っていること。』という表現を使用する学科では、当該訓練科目が目指す技能者として必ず知っていなければならない、専門的かつ高度な知識である。
- (5) 系基礎学科、系基礎実技、専攻学科、専攻実技において教科目ごとに習得の程度を表す尺度は、三段階の区分がある。

問6. 下記の文章は職務分析に関する記述である。この文中の(ア)及び(イ)内に入る語句の組み合わせとして、次のうち正しいものを1つ選びなさい。

「職務分析では各職種ないし職業毎に、あるいは可能ならばそれをいくつかの作業部門に分けて各部門に、分析を行う。作業部門に含まれる代表的な仕事を(ア)といい、(ア)にはいくつかの(イ)が含まれる。」

- (1) (ア)エリア (イ)ブロック
- (2) (ア)ジョブ (イ)オペレーション
- (3) (ア)ブロック (イ)オペレーション
- (4) (ア)ブロック (イ)ジョブ
- (5) (ア)エリア (イ)ジョブ

問7. 指導の4活動(動機付け、提示、適用、評価)に関する記述として、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 「動機づけ」では、目標を明確にして学ぶ必要性を感じさせる。
- (2) 「適用」では、プリント資料やOHPなどの教材を活用して説明する。
- (3) 「提示」では、理解しやすく記憶に残るように工夫する。
- (4) 「評価」では、指導の各段階で習得状況を確認する。
- (5) 4活動(動機付け、提示、適用、評価)は単位時間に繰り返し現れる。

問8. 学科指導の進め方に関する記述として、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 抽象的な指導内容と現実とを結びつけた話題を提供することは有効である。
- (2) 視聴覚教材を利用して実物を実感できるものを持ち込む方法は有効である。
- (3) 課題や演習に取り組みせたり、グループワークを活用する方法は有効である。
- (4) 指導案は指導員個人のメモとして準備し、施設の共有財産として整理しておく必要はない。
- (5) 教科書や資料などは、必ずしも体系や概念、構造を理解しやすく書かれているわけではない。

問9. 作業分解を行うにあたっての記述として、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 作業の成否を左右するものは、急所にあげなければならない。
- (2) 作業分解では、手順ごとに急所とその理由を書き出す。
- (3) 安全に関することは急所にあげる。
- (4) 作業分解は、訓練生が実習で得た「かん」や「こつ」を自主的にまとめておくものである。
- (5) 作業をやりやすくするものは急所にあげる。

問10. 視聴覚教材の役割と効果に関する記述として、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 擬似的な現実体験を提供してくれるので、実習を省略できる効果がある。
- (2) 印象的な内容を示すことで訓練の単調さを打ち破り、訓練生の注意を引きつける効果がある。
- (3) 人間の視覚、聴覚をはじめとする感覚器官を刺激することで、指導すべき内容の伝達を助ける効果がある。
- (4) 分かりにくい概念や抽象的な事柄を構造的に理解しやすくする効果がある。
- (5) 情報を視覚的に提供することで、記憶を長く留める効果がある。

問11. 訓練評価に関する記述として、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 評定的評価の代表として、技能照査が挙げられる。
- (2) 形成的評価の代表として、授業評価アンケートが挙げられる。
- (3) 評価は訓練実施中及び訓練終了時に実施し、訓練実施前や実施後は評価の対象としない。
- (4) 評定的評価とは、評価対象を一定の価値基準として比較してその価値基準の中での位置を決めることである。
- (5) 職業能力開発施設にとっては、その後の訓練の改善に活用できる。

問12. 職業能力開発の支援に繋がる検査方法、厚生労働省編 一般職業適性検査(GATB)における適性能と内容の組み合わせにおいて、次のうち正しいものを1つ選びなさい。

	適性能	内容
(1)	G- 知的能力[General Intelligence]	眼と手又は指を共応させて、正確に作業をする能力
(2)	V- 言語能力[Verbal Aptitude]	説明や教示、諸原理を理解する能力
(3)	N- 数理能力[Numerical Aptitude]	言語の意味及びこれに関連した概念を理解し、それを有効的に使う能力
(4)	S- 空間判断力[Spatial Aptitude]	図解されたものを細部まで正しく知覚する能力
(5)	Q- 書記的知覚[Clerical Perception]	ことばや印刷物、伝票類を細部まで正しく知覚する能力

問13. 訓練生を理解するための資料による調査とその活用上の留意点に関する記述として、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 訓練生活を通じた継続的な記録により、経過がわかるように整理する。
- (2) 訓練生の個人資料の利用は、その責任者が慎重に取り扱い、職業能力開発の目的以外に利用してはならない。
- (3) 資料は、問題を明確にし、問題発見や改善に役立てるように整理する。
- (4) 訓練生の適性、職業選択及び職業能力の向上を図るなど、キャリア形成や建設的な活用に利用する資料になる。
- (5) 交友関係者からの意見聴取は、訓練生を理解するための参考資料にはならない。

問14. 下記の文章は、発達障害に関する説明である。この文中の(ア)及び(イ)内に入る語句の組み合わせとして、次のうち正しいものを1つ選びなさい。

「発達障害」は症状や特性が、診断名どおりに明確に区分されず重複する場合が多く、同じ診断名の者同士であっても、まったく異なった障害のように見えることが珍しくない。発達障害のなかでも自閉スペクトラム症は(ア)の3領域に発達の偏りがある。限局性学習症(SLD)は(イ)だけが学習できない。

- |                           |            |
|---------------------------|------------|
| (1) (ア) 社会性、コミュニケーション、想像力 | (イ) 一般的な知識 |
| (2) (ア) 感受性、コミュニケーション、言語  | (イ) ある特定部分 |
| (3) (ア) 社会性、コミュニケーション、想像力 | (イ) 専門的な用語 |
| (4) (ア) 社会性、コミュニケーション、想像力 | (イ) ある特定部分 |
| (5) (ア) 感受性、コミュニケーション、言語  | (イ) 一般的な知識 |

問 15. 技能を習熟する過程に関する記述として、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 熟練者は、身体の動きが円滑で無駄がなく、調和がとれて少しの無理も見当たらない。
- (2) 技能の水準が高くなり、習熟がある程度上達すると練習効果が一時的に上がらなくなる。これを練習の高原(プラトー)と名づけている。
- (3) 技能の反復練習は、ただ漠然と練習を重ねるだけで、効果を上げることができる。
- (4) 我流による作業練習は、その作業動作が固定化され矯正するのが困難になるため、初歩から正規の作業練習をすることが大切である。
- (5) 一般に大人は技能の習得の際、非常に理屈っぽく、よく聞きたがる傾向にある。

問16. 生活指導上の留意点に関する記述として、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 生活指導は、指導にあたる職業訓練指導員と訓練生の人間的な信頼感を深めることによって、一層の効果を発揮し得る。
- (2) 生活指導は、人間の価値の重要性を認識し、目標達成や自己解決への働きかけを助けるものであることから、その方法が押し付け、命令的、もしくは説教的であってはならない。
- (3) 生活指導では、訓練生の個人的な悩みや問題は範疇としない。
- (4) 生活指導は、訓練生の人格を重視し、人格の調和的な発達を援助するよう行わなければならない。
- (5) 生活指導は、訓練生の個性を重視しながら、共同生活に適応させようとするばかりでなく、規律の確立、志気の高揚に役立つよう行わなければならない。

問 17. 職業指導に関する記述として、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 派遣やパートを含め、各人の希望する多様な働き方を支援する求人開拓に努める。
- (2) 訓練生がより適切な職業選択ができるよう、求人状況等雇用情報を整備し情報提供する。
- (3) 職業相談や面接により、就職希望職種、就職希望地、待遇等求職に関する希望・条件を把握する。
- (4) 訓練修了時点で就職の決まらなかったものに対しては、引き続き就職支援を行う。
- (5) 訓練生のキャリアは個人情報であるから、たとえ指導員であっても関与してはならない。

問 18. カウンセリングを進める場合の心得に関する記述として、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 相談者は、よい聴き手になって、相手の言うことをよく聴く。
- (2) 話し合いの途中の沈黙に対しては、積極的に話し続けることが大切である。
- (3) 矛盾している感情は、その場で瞬間に否定せず、許容的な態度で接する。
- (4) 心の中にあるわだかまりや悩みを吐き出させる。
- (5) 相手の話した内容だけでなく、それに伴う感情に注意する。

問 19. 職業能力開発促進法に関する記述として、次のうち誤っているものを1つ選びなさい。

- (1) 事業主等は、国及び都道府県に委託して職業訓練の一部を行うことはできない。
- (2) 事業主は、雇用する労働者が多様な職業訓練を受けること等により職業能力の開発及び向上を図ることができるように、その機会を確保する。
- (3) 事業主は、事業内職業能力開発計画の作成及びその実施に関する業務等を担当する者として職業能力開発推進者を選任するよう努めなければならない。
- (4) 事業主等の行う職業訓練のうち、その内容が職業訓練の水準の維持向上のための基準に適合するものについては、都道府県知事の認定を受けて職業訓練を行うことができる。
- (5) 事業主は、雇用する労働者に係る職業能力の開発及び向上が段階的かつ体系的に行われることを促進する。

問 20. 労働基準法に関する記述として、次のうち正しいものを1つ選びなさい。

- (1) 労働基準法の定める労働条件は最低の基準であるため、使用者は、よりよい労働条件を作り出すよう努力しなければならない。
- (2) 労働基準法では、使用者と労働者の経済的な力の差等から、労働者が不利になりがちであり、そのため、労働者のほうが強い立場で労働条件を決めなければならない。
- (3) 労働契約を結んだときの労働条件と実際に働いたときの労働条件が違っても、労働者は、一旦結んだ労働契約を解除することはできない。
- (4) 労働基準法では、暴力によって労働者の意思に反して強制的に働かせることについては、禁止していない。
- (5) 労働基準法では、使用者は、労働者の国籍、信条又は社会的身分を理由として、賃金、労働時間その他の労働条件について、差別的取扱いをしてはならないとされている。